

自然をめぐるエッセー 44

由井 浩

雨の日のスイレン池

スイレンの花の写真を撮る場所を増やそうと思って花の名所の案内本を見ていると埼玉県入間市にある円照寺の池の写真が目にとまったので、6月の末に西武池袋線の元加治駅の近くにあるこのお寺を訪れた。

この日は雨模様の天気だったので、今までであればカメラが濡れるのを嫌って、写真を撮りに出かけることはしなかったが、ある本に「雨の日は花の写真を撮るのに向いている」とのプロの写真家の意見が書いてあったのを思い出して、雨の中を出かけることにした。

円照寺の境内には本堂の南面のそれほど広くない庭に2つの池がある。西側の池は弁財天堂を凹字型に囲んでいて、このお寺の風景の主役を演じていた。この池の弁財天堂の東側では目当てとしてきたスイレンが一面に咲き始めていた。

この池には沢山の鯉が飼われている。その中で紅白の模様の錦鯉は、遠くにいても、水中深くにいても姿をとらえやすく、写真映りも良さそうなので、スイレンの花と同じ構図に入れて写真に収めようと思った。鯉の動きはそれほど速くないので、狙った写真が直ぐに撮れるだろうと安易に考えていた。待ち構えた所に来る直前でUターンしたり、突然水面に口を出したりと、鯉の動きは意外性に富んでいて結構時間がかかったが、ようやくスイレンの花の近くを錦鯉が泳いでいる光景を撮ることができた。



弁財天堂とスイレン池



錦鯉とスイレン

池の弁財天堂の西側ではコウホネというスイレン科の水草の黄色い花がところどころで咲いていた。コウホネの名の由来を調べると、水中にある根茎が白く、ゴツゴツとしていて骨のように見えるので河骨と書かれるようになり、読みは“カワホネ”から“コウホネ”に変化したとのことである。



コウホネの黄色い花

池畔近くに咲くコウホネの花の写真を撮っているうちに、水紋がスイレン池の写真を撮った時に比べて相当大きいことに気がついた。池畔の木立の葉に溜まってから落ちた雨水が大きな水紋を描いていた。

スイレン池に戻り、池畔に木が茂っている辺りの水面を観察していると、雨による水紋と木立の葉に溜まってから落ちた雨水の水紋によって大小さまざまな環が浮かんで消えていた。水紋の環の近くに紅白の錦鯉が現われたのでシャッターを切った。これまでに撮ったことがない動きが感じられる写真が撮れた。



スイレン池の大小さまざまな水紋の環

“雨の日は写真を撮るのに向いていない”というこれまでの自分の固定観念に捉われずに雨の日に写真を撮りに出かけたために、自然の描写に新しい視界が開けた気がする。